



PISA

IN FOCUS

28

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

都市部の学校は何が違うのだろうか？

- ほとんどの国と地域で、都市部の学校に通う生徒たちは他の生徒たちに比べて高い成績を収める傾向がある。
- 社会経済的地位は、都市部の学校に通う生徒たちとそれ以外の生徒たちの間の成績差を部分的にしか説明しない。
- 都市環境の学校は、規模が大きく、よりよい教育資源の恩恵を受ける傾向があり、こうした資源をどのように配分するか、より高い自主性が認められている。

生徒の成績における
「都市部の優位」はほぼ
どの国及び地域でも見られる…

OECD加盟国全体の平均で、人口10万人以上の都市の学校に通う生徒たちは、村、農村地域又は住民が10万人未満の町の学校に通う生徒たちよりも、PISAの成績が良かった。このような成績の差は、PISAの得点では約20点と表され、学校教育半年分に相当する。ただし、都市部の学校に通う生徒たちと非都市環境の学校に通う生徒たちとの間で成績にどの程度の隔たりがあるかは、国ごとに大きく異なる。多くの非OECD加盟国・地域で、成績格差は非常に大きい。例えば、アルバニア、ブルガリア、ドバイ、キルギスタン、パナマ、ペルー及びカタールでは55点以上であるが、成績における「都市部の優位」は、PISA2009年調査に参加したすべての非OECD加盟国・地域に見られる。OECD加盟国間では、生徒たちのこうした二つのグループ間の成績格差は19か国で見ることができ、メキシコとポルトガルで最も大きい。15のOECD加盟国には、成績差はなかった。

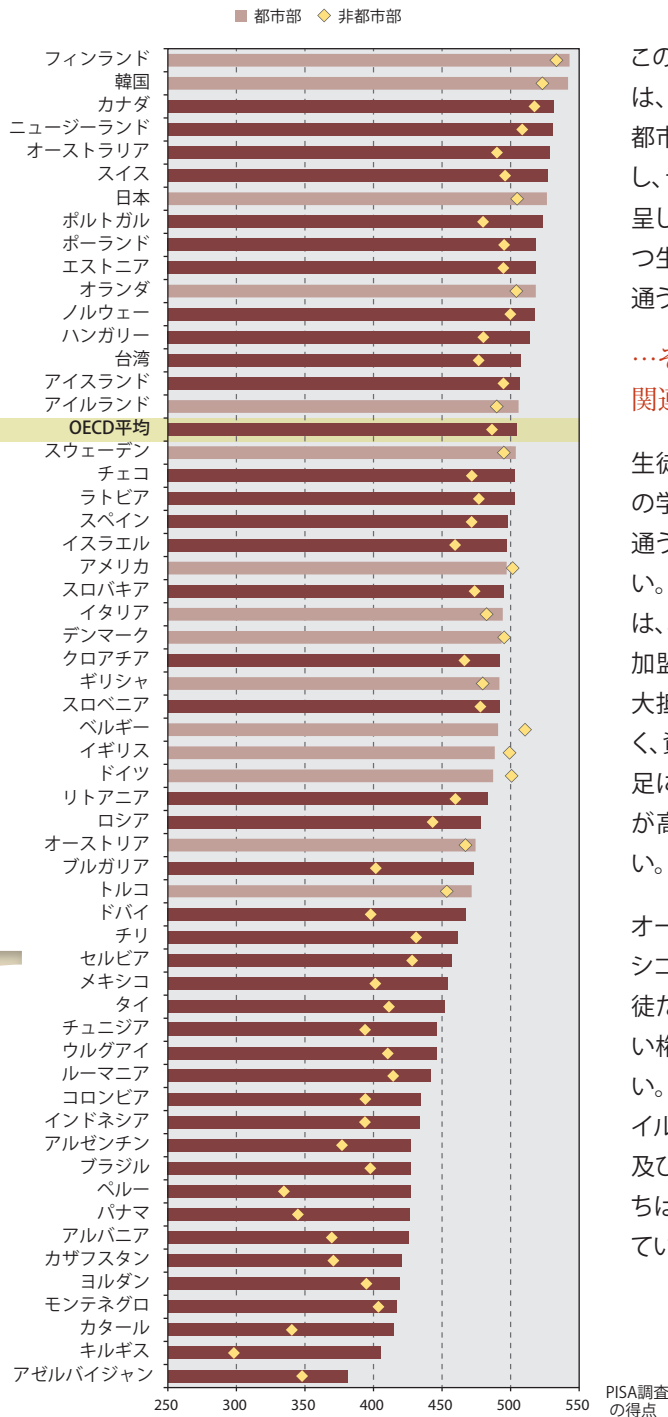
人口10万人以上の都市では一般に、スキルの水準が特に高い個人と特に低い個人の代表が集まりすぎている。多くの国・地域で、都市部の学校に通う生徒たちと村、農村環境又は町の学校に通う生徒たちとの成績差には、各家庭の住宅と雇用実態が反映され、それがひいては生徒たちの社会経済的地位の地理的な分布に影響を与える。オーストリア、ベルギー、ドイツ、イスラエル、韓国、オランダ、イギリス及びアメリカを除くすべての国・地域で、都市環境の学校に通う生徒たちは、社会経済的に恵まれた家庭出身である。



PISA

IN FOCUS

生徒の成績における「都市部の優位」



この理由として考えられるのは、こうした国や地域では、雇用の見込みが、特に高度熟練労働者に関して、都市部の方が高いと考えられることである。これに対し、デンマークでは、社会経済的分離は異なる様相を呈している。高学歴で高い地位の職業に就く両親を持つ生徒たちは、農村地域や10万人未満の町の学校に通う可能性が高い。

…そして、生徒たちの社会経済的背景に関連するだけではない。

生徒たちの社会経済的背景における違いは、都市部の学校に通う生徒たちと都市部以外の地域の学校に通う生徒たちとの成績格差を部分的にしか説明しない。実際に、都市部の学校は、農村地域や町の学校とは、異なる傾向がある。都市部の学校は、特に非OECD加盟国・地域において、農村地域や町の学校よりも、大抵規模が大きく、社会経済的に恵まれた生徒が多く、資源配分においてより大きな役割を担い、職員不足に悩まされることも少なく、資格をもつ教師の割合が高い傾向にあり、教師一人あたりの生徒数が少ない。

オーストラリア、コロンビア、ドバイ、フィンランド、メキシコ、パナマ、ペルー及びウルグアイでは、都市部の生徒たちが、人口の少ない地域よりも、資源配分に幅広い権限を有する学校に通っている割合はるかに高い。同様に、ベルギー、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イスラエル、オランダ、パナマ、スロバキア及びイギリスを除くすべての国で、都市環境の生徒たちは、住民数の少ない地域よりも、大きな学校に通っている可能性が高い。

注：都市部と非都市部の読解力得点差が統計学的に有意なものは、濃い色で示している。
都市部の生徒の読解力のPISA得点の高い国から順に並べている。
10万人以上の都市にある学校を「都市部」とし、対して10万人未満の地域にある学校を「非都市部」としている。
出典：OECD PISA 2009 database.



OECD加盟国／非加盟国・地域において、
都市部の学校は非都市部の学校と
どう違うのか

	学校の社会経済的背景	学級秩序	学校規模	カリキュラムや評価に対する責任	資源配分に対する責任	有形の教育資産	教員不足	課外活動	教師一人あたりの生徒数	資格をもつ教師の割合	生徒と教師の関係
オーストラリア	+	+	+		+	+	-				+
オーストリア			+								
ベルギー				-	-	-	+				+
カナダ	+		+			+	-	+			+
チリ	+		+								
チェコ	+		+				-				
デンマーク	-		+		-				+		
エストニア	+	+	+					-	+	+	
フィンランド	+		+		+	+					
ドイツ							-				
ギリシャ	+									+	
ハンガリー	+					+					
アイスランド	+	+	+	+	-	-	+		-	+	+
アイルランド	+				+	+				+	
イスラエル		+			+				-		-
イタリア	+		+		+				+		-
日本	+		+					+	+		
韓国			+						+		
メキシコ	+	-	+	+	+	+	-	+			
オランダ				+							
ニュージーランド	+	+	+					+	+		+
ノルウェー	+		+			+	-				
ポーランド	+	-	+								-
ポルトガル	+		+						+		
スロバキア	+	-									
スロベニア	+	-	+	+	-	-		-	-	+	
スペイン	+		+		+				+		
スウェーデン	+	+	+		+						
スイス	+		+	+							
トルコ	+		+					+			
イギリス									-		+
アメリカ			+								
アルバニア	+		+		+	+		+	+	+	
アルゼンチン	+		+			+	-				-
アゼルバイジャン	+		+						+	+	-
ブラジル	+	-	+		+	+	-	+		+	-
ブルガリア	+		+								-
コロンビア	+		+		+	+	-	+	+		-
クロアチア	+		+								-
ドバイ	+	+	+	+	+	+	-	-	+	-	-
インドネシア	+		+			+	-			+	-
ヨルダン	+		+	+	+				+		
カザフスタン	+		+		+				+	+	-
キルギス	+		+		+	+			+	+	-
ラトビア	+		+	-	-				+	+	
リトアニア	+		+	-	-						-
モンテネグロ	+	+	+	-	-	+	-		+	+	-
パナマ	+				+	+	-			+	-
ペルー	+		+	+	+	+	-	+		+	
カタール	+	+	+	+	+	+	-	-	+	-	+
ルーマニア	+		+				-				-
ロシア	+		+			+		+	+	+	
セルビア	+		+				-	+	-		-
台湾	+		+					+	+	+	
タイ	+		+					+	+	+	
チュニジア	+	-	+			+					
ウルグアイ	+		+	+	+	+	-				-

注：十分なデータが得られた国・地域のみを対象としている。
「+」「-」の記号は、都市部と非都市部の学校間に統計学的に有意な差があったことを示している。記号が無い欄は、統計的に有意な差が見られなかったものである。

出典：OECD 2009 database.



PISA

IN FOCUS

都市部の学校は、生徒の成績が優れていることに関連するある特徴から恩恵を受ける傾向がある。

PISA2009年調査に参加する生徒たちに配布されたアンケートの分析により、オーストラリア、ドバイ、エストニア、アイスランド、イスラエル、モンテネグロ、ニュージーランド、カタール及びスウェーデンでは、都市部の学校に通う生徒たちは、人口の少ない地域の学校に通う生徒たちよりも、良好な学級秩序を享受する傾向がある一方、ブラジル、メキシコ、ポーランド、スロバキア、スロベニア及びチュニジアではその反対であることも、分かっている。PISA2009年調査に参加した65の国と地域のうち17の国と地域において、都市部では教員不足が非都市部よりも問題とならず、15か国において、都市環境の学校に通う生徒たちは、より多くの、より幅広い課外活動から選ぶことができる可能性が高い。

生徒及び学校の特徴における違いを考慮すると、人口10万人以上の都市の学校に通う生徒たちと人口の少ない地域の学校に通う生徒たちは似たような成績だった。これは、生徒たちのこうした二つのグループ間の成績差が、部分的には生徒たちの二つのグループ間の社会経済的背景における違いから生じ、部分的には多くの国々で都市の学校が、人口の少ない地域の学校とは異なる資源を与えられ、異なるガバナンス構造を備え、異なる学習環境を提供しているという事実から生じていることを示唆している。

結論：大都市の学校に関する社会通念に反して、PISA調査から、こうした学校の生徒たちは一般に非都市環境の学校に通う生徒たちよりも成績が良いことが分かっている。成績差は生徒たちの社会経済的地位に関連する一方で、より多くの優れた資源があり、そうした資源の配分の仕方により高い自主性が認められており、教員数が十分であるなど、都市部の学校に際立っている幾つかの特徴とも関連付けられる。

本稿に関するお問合せ先

担当：Francesca.Borgonovi (Francesca.Borgonovi@oecd.org)

出典：OECD (2010), *PISA 2009 Results: Overcoming Social Background: Equity in Learning Opportunities and Outcomes*, (Volume II), PISA, OECD Publishing;

OECD (2010), *PISA 2009 Results: What Makes a School Successful? Resources, Policies and Practices* (Volume IV), PISA, OECD Publishing.

参考サイト

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

次回テーマ：

「移民の生徒たちの読解力は受入れ国で過ごした年月と関係があるのだろうか」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。